



@CAMPUS

@キャンパス

輝いてリケジョ

研究室で

老化防止に：シヨウジヨウバエ



「高校の時から生物が好きで、シヨウジヨウバエの研究がしたい」と志す。上田真貴子さんは、シヨウジヨウバエの研究がしたいと志す。上田真貴子さんは、シヨウジヨウバエの研究がしたいと志す。上田真貴子さんは、シヨウジヨウバエの研究がしたいと志す。

「高校の時から生物が好きで、シヨウジヨウバエの研究がしたい」と志す。上田真貴子さんは、シヨウジヨウバエの研究がしたいと志す。上田真貴子さんは、シヨウジヨウバエの研究がしたいと志す。



「高校の時から生物が好きで、シヨウジヨウバエの研究がしたい」と志す。上田真貴子さんは、シヨウジヨウバエの研究がしたいと志す。上田真貴子さんは、シヨウジヨウバエの研究がしたいと志す。



●「リケジョ」が活躍する京都工芸繊維大の研究室(京都市左京区)
●実験に使う器具



取材メモ 京都工芸繊維大って？

「工織大」と聞いてどんなイメージを浮かべるだろうか。学部には、応用生物学、生体分子応用化学、高分子機能工学、物質工学、電子システム工学、情報工学、機械工学、デザイン経営工学、デザイン・建築学、先端科学技術と10課程がある。入学者の男女比率は、電子システムや情報工学では女子が1割を下回り、「理工系の大学＝男子が多い」と思われることにもなる。一方、デザイン経営工学とデザイン・建築学は男女比がほぼ1対1、応用生物学でも女子が半分を占め、「理工系＝男子」は当てはまらない。

部活でも



●関西学生リーグに加盟するラクロス部
●ラクロス部の加藤さん(左)と野村さん

一致団結 ラクロス部

「リケジョが輝くのは、研究室の中だけではない。工織大唯一女子部員のみで、女子ラクロス部は、1年から4年まで、さまざまな課程の生約30人が所属している。

部員みんなが理系だからこそ、実験、研究などの忙しさを互いに理解でき、勉強部活動を両立しやすい環境にある。時間を確保するのが厳しい中で練習を行い、午前7時半から始まる朝の練習のために始発車でやってくる部員も多い。練習はほろ大愛だが、続ける中に変化があるという。1チームは1人なので学年を超えてチームをつくる。応用生物学課程4年加藤紗枝さん(2)と同水野輝恵さん(2)は、「一致団結し試合を通して絆を強められることが楽しい」と語る。また「1年から初めラクロスをめぐる部員が多いので、みな同じスタートラインから練習できるのが魅力と強調する。8月には関西学生リーグ戦・新人戦がある。本番に向け日々、練習、部活に励んでいる彼女たち。今後も、輝くリケジョに注目していきたい。

今週の記者

工芸科学部	津田	冴子(21)
4年	岸田	彩花(20)
2年	岡田	楓(20)
1年	嶋田	雄介(19)

うちのプロジェクト

京都工芸繊維大の魅力を生徒目線で発掘・発信すること、京都や日本、世界での知名度向上やブランド価値を高めることを目指し、2013年7月に結成しました。大学公式のフェイス

ブックやツイッター、LINE(無料通信アプリ)で大学の様子や季節感のある周辺情報を発信。高校生に向けた大学紹介紙の制作や他大学の広報団体との交流などもしています。

関西で唯一、国公立の理工系単科大学である京都工芸繊維大。理工系といえば男子学生が多いイメージがあり、工織大も男子が4分の3を占めている。そのような大学で女子学生たち、いわゆる「リケジョ」は頑張っている。彼女たちは研究や部活動にどう取り組んでいるのか。工織大の輝くリケジョを紹介したい。

すくく華やかに仕上がった今回の記事。女子の比率は比較的少ないだろうと、進学に抵抗を感じる女子高生もいるかもしれません。この記事を読んで、そっぴった抵抗感を解消できたらと思います。

「理系といえど、白衣でしつこく研究室にお邪魔しました。リケジョとラクロス部を前に出し、誰が見ても目に留まるエリアのある紙面に、彼女たちの雄姿は伝えられたでしょうか。

京都工芸繊維大学
広報チーム
K-NOSBY